

海外語学研修（台湾） 報告書

医療科学部 放射線技術学科 2回生 佐野 宏行



今年の台湾へのサマースクールの参加は2回生二名、1回生四名でした。私は2回生で先輩に当たる立場なのでそれを念頭においていました。お相手をして下さるホストの学生さんたちも六名で本学の参加者と同じ人数でした。1日目、関西空港から約三時間で台北に着くのですが、フライトの発着が遅れました。しかし、その他は大したアクシデントもなく場は進行していきました。実を言うと台北に到着するまで私は少し不安でした。「このサマースクールのホストの学生はどんな人たちのだろうか？」1週間朝から晩まで一緒にいてくれるお付き合いになるのでどんな人なのか少し気になっていました。

台北に予定時刻より遅れて着くと、元培医事科技大学の学生さん達が空港で待っていてくれました。自分の1週間のパートナーの方が先にネームカードをかけてくれて嬉しかったのを覚えています。バスで自分たちの宿となる元培医事科技大学の学生寮まで移動しました。

宿舎に着くと一緒にの部屋に泊まる台湾の学生さんと対面しました。彼はとても素直で真面目で、とても楽しい1週間を過ごすことが出来たと同時に色々なことを彼から学びました。言語が違うのですべての会話を理解出来なかったし、もともと私は大人しいタイプなので様々な話ができただけではなかったのですが、要所所で‘謝謝’とか‘sorry’と言えれば通じ合う気がしましたし、1週間経てばすっかり仲良くなっていました。夜に二人で室内にいて彼が部屋から出ていくとき、‘You can sleep earlier.’と必ず言ってくれてとても嬉しかったのを覚えています。私も‘Thank you! Thank you!’と言いました。きっと彼は「自分が部屋に戻ってくるまで起きて待ってなくていいよ」と、言いたかったのだと思います。思いもしない心遣いに感動させられたのを覚えています。

なんでもそうであると自分では思っていることがあって、大学生活でもそうだと思うのですが一番最初はとても記憶にのこるということ、です。例えば大学入学の4月というのは集中しているのでとても時間の流れが濃密に感じられるし、とても記憶に残ります。同じように、サマースクールの一週間の中で最も印象的だったのは初日であった気がします。フライト自体もある種の覚悟が求められますし、様々な緊張・興奮・不安が入り混じっていました。台湾の学生さんと対面した後は非常に安心してはいましたが、神経はかなり使っていました。

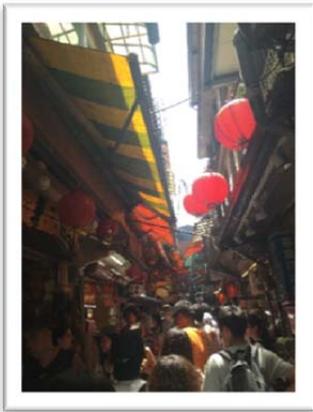
中国語の授業では、中国語での自己紹介やコマやヨーヨーなどの台湾の文化に触れたり、歌を歌ったりしました。とても有意義な授業であったように思います。授業中も台湾のホストの学生さんには付きっきりで中国語を教えて貰ったり、逆に私たちが日本語を教えたりととても楽しく貴重な時間を過ごせたかと思いません。

右の写真は中国語の歌に乗せてステップを踏んでいるところです。みんなでステップを踏みましたし、またぞうさんの歌も中国語で歌いました。ぞうさんとはダァシャンと言うそうです。

私たちはまた台湾の病院も訪れました。國泰総合医院と臺安医院を訪れ、院内の見学と病院の説明のプレゼンテーションを聴きました。質問もできたので質問もしました。

國泰総合医院ではCTやMRIやマンモグラフィ、単純X線等の機械を見学できました。今まで学校で習ってきて写真でしか見れなかった本物の機械を見ることができました。小さな感動があったのを覚えています。ここでは優れた技師の行う検査をビデオテープに映して、それを見ながら自分の検査にフィードバックし、精度を高めていっていることも聞けました。よりよい検査をしたい、患者に施したいという熱意が伝わってきます。

また臺安医院では予防医療をしていて院内にジムもあるということでジムに行きみんなで運動をしました。患者さんからの評判も良いそうです。



最後に台湾全体の印象としてはやはりアジアならではの活気を感じました。アジアらしい街の混み合った光景や自然の良さなども体験でき非常に貴重な研修旅行に参加出来てよかったです。ホストの方々も日本の学生とはかなり異なる印象を受けました。でも、みんなよくしてくれてとても嬉しかったのを覚えています。台湾の元培医事科技大学の先生も仰ってましたが、当大学の学生は他人の面倒を見るのがとても好きだ、と。知的で心のこもった対応は非常に私の心に入ってきました。みんなで力を合わせて成しえたこの研修旅行が無事に終わって本当に安心しています。本大学のメンバーのみんな、先生方、そして

台湾のホストのみんなと先生方、

応援してくれた家族には本当に感謝しています。ありがとうございました。

